



「楽しかった！」

南帷子小学校長 堀田 誠

今年の「信長まつり」は例年になく大盛況でした。それは、キクタクこと木村拓哉さんが織田信長役を行ったからです。一目見ようと全国から応募が殺到したり、ポスターに値段が付いたり、木村拓哉さんが前日訪れたラーメン屋さんに客が殺到したりと久しぶりに岐阜が全国ニュースに登場する騒ぎとなりました。木村拓哉さんと言うと、今から20~30年前のトレンドドラマで、ゴールデンタイムの時間にはいつもテレビ出演していました。実は、その当時、夜遅くまで仕事をしていたので、このドラマを見逃していました。YouTubeの普及により、見逃したドラマを数十年ぶりに視聴することができます。「ラブ ジェネレーション」「HERO」「GOOD LUCK!」等、どの作品も良かったですが、個人的には「ロング・バケーション」が一番です。平均視聴率29.6%（視聴率は関東地区・ビデオリサーチ社調べ）、最終回の瞬間最高視聴率は、43.8%を記録するなど、「月曜日はOLが街から消える」と週刊誌などで言われ、このドラマの影響でピアノを習い始める男性が増えるなど「ロンバケ現象」なる社会現象を巻き起こした作品でした。

さて、岐阜まつりの翌日に、担任の先生がお休みのため、3年生の朝の会に入ることとなりました。先生の話の中で、「昨日、岐阜市の信長まつりでキムタクが来て、すごい話題になったね。」と切りだし、「ところで、キムタクは知っている？」と聞くと、「映画に出る人」という答えが返ってきました。「SMAPの人」「ジャニーズの人」という答えが返ってくると思っていましたが、意外とポカンとした表情をしている子が多かったので、「キムタクを知っている人？」と挙手を求めました。半数は手を挙げませんでした。キムタクが信長まつりに来ると言う出来事は大人にとってはビックなニュースですが、子どもの中では「誰それ？」「なんでそんなに騒いでいるの？」という感じなのです。「Generation Gap」を感じた瞬間でした。考えてみれば木村拓哉さんも50歳で、子どもから見れば「映画に出ているおじさん」なのでしょう。

先日、3年ぶりに宿泊を伴う研修が実施されました。5年生は関合宿、6年生は修学旅行です。「泊まるの嫌だ」という子どもの声もありましたが、関合宿のキャンプファイヤーでは、最初は硬かった表情の子どもたちも、火が点火され、その火を囲んでレクが始まると気持ちもほぐれて無邪気になる姿がありました。火を見て興奮したのでしょうか、その夜はなかなか寝付けなかったそうです。6年生もコロナの影響で、家族と離れて食事・入浴・寝泊まりする体験をしました。いつも以上にご飯がおいしく感じたようで、おかわりをする子も多かったです。夜は比較的早い時間に静かになりましたが、静かに友達と語り合っていたのかも知れません。解散式で大澤先生が「楽しかったですか？」と尋ねると「楽しかった！」と声をあげる子もいました。

生きてきた時代が違うので、Generation Gapを感じることも多々ありますが、宿泊研修の思い出は変わらないものだと思います。コロナ禍の宿泊研修の実施に際して、保護者様には多くのご理解・ご協力をいただきました。「楽しかった！」の一言には、すべての苦勞を吹き飛ばす力があります。改めて感謝です。



真っ赤な紅葉